

群馬県国際理解教育研究会

だより

群馬県国際理解教育研究会
発行責任者 会長 天川 博

平成29年度在外施設派遣内定者数445名

現職派遣予定者

都道府県名	校長		教頭		教諭			
	男	女	男	女	男	女		
北海道	2		3		1	2	3	20
青森県				1			2	3
秋田県	1				1			2
岩手県					2	2		4
山形県							1	1
宮城県	1				4	3		8
福島県	1				3			4
新潟県					3	3		6
群馬県			1		1			2
栃木県				1	3			4
茨城県	1				6	3		10
千葉県					5	6		11
埼玉県	1				1	0	7	18
東京都					2	1	6	27
神奈川県	2	1			1	0	2	15
静岡県					1	0		10
山梨県					2			2
長野県					5	1		6
富山県							2	2
石川県							1	1
福井県					1			1
滋賀県					3			3
岐阜県					2			2
愛知県					1	1	1	14
合計	11	1	4	2	115	4	3	
	12		6		158			

都道府県名	校長		教頭		教諭				
	男	女	男	女	男	女			
三重県					3	2		5	
奈良県					4			4	
和歌山県					2			2	
大阪府	1			1	1	5	1	4	31
京都府						6			6
兵庫県	1		1		9	1	2		22
岡山県					3	2			5
鳥取県					2	3			5
島根県					2	1			3
広島県	1				1	1			3
山口県					2	1			3
香川県	1				2				3
徳島県					2	1			3
愛媛県					1				1
高知県	2						1		3
福岡県	1						6		7
佐賀県						3	2		5
長崎県	1					2	5		8
大分県						1			1
宮崎県	1			2	3	2			8
熊本県					6	1			7
鹿児島県					8	2			10
沖縄県					2				2
国立学校							5	1	6
合計	9	0	1	3	8	4	5		
	20		1		5		199		100
総合計	21		10		299				

シニア派遣予定者(115名)

	男	女	合計
校長	32		32
教頭	16	1	17
教諭	46	20	66

◆群馬県：5名(男4名、女1名)です

派遣者数の多い都道府県

1位	大阪府	31名	8位	千葉県	11名
2位	東京都	27名	9位	茨城県	10名
3位	兵庫県	23名		静岡県	10名
4位	北海道	20名	10位	鹿児島県	10名
5位	埼玉県	18名		宮城県	8名
6位	神奈川県	15名		長崎県	8名
7位	愛知県	14名		宮崎県	8名

海外派遣教員セミナー・家族のための研修会



海外派遣教員セミナー講座①「海外子女教育の特質と求められる教師像」

榛東村立榛東中学校 校長 山賀信幸
(元オーストラリア・パース日本人学校)

1. 派遣を希望するまで
 - ・海外生活の期待、国際情勢の情報収集、海外に暮らす子ども達 住めば都
2. 派遣までの具体的な取組
 - ・教職経験を生かす、家族理解と協力、応募から派遣まで、学校や周囲の協力と応援
3. 三年間の派遣先の概要

【講義する山賀信幸榛東中学校長】

- ・パース日本人学校の様子、パース日本人学校の子ども達、日本人社会での付き合い、現地社会との交流
4. 日本人学校の役割
 - ・日本の学校との共通点と相違点（学習指導要領に基づいた教育、現地語の習得、交流学习）、補習授業校（現地校やインターナショナルスクールへの就学、週一回の授業日ー土曜日か日曜日）、
 5. 求められる教員像
 - ・健康（家族も含め）、情熱（子ども達のために）、協調性（同僚、地域）、積極性（チャレンジ精神）

柔軟性とバランス感覚

6. 派遣教員の役割
 - ・学力向上と国際社会で活躍する子ども達の育成、現地理解（言語の習得と宗教、文化理解と交流）、日本紹介（日本文化の紹介と交流）
7. まとめ ・仲間（家族・周囲）との絆、視野の広がり（日本の常識＝世界の常識）、日本再発見

海外派遣教員セミナー講座②「出願から派遣まで」

伊勢崎市立宮郷小学校 教諭 須田貞崇（前クアラルンプール日本人学校）

1. 在外教育施設（平成28年4月27日現在）

①日本人学校（全日制：日本の学校と同じ）	89校
②補習授業校（土曜日や月～金の放課後）	205校
③私立在外教育施設	8校
2. 海外で学ぶ子ども達（約8万人）

①日本人学校で	約2万1000人
②補習授業校及び現地校で	約2万0000人
③現地校・その他	約3万7000人
3. 派遣教員数 1070人 シニア派遣教員200人
4. 在外教育施設派遣の公募



【講義する須田貞崇伊勢崎宮郷小教諭】

【須田貞崇先生伊勢崎市立宮郷小学校】

- 募集要項配布（4月中旬）
- 応募書類締切（5月上旬締切）
 - ①「在外教育施設派遣教員選考調査票」（本人作成）
 - ・応募者情報（住所・氏名・生年月日・学歴・教職歴・所有免許状等）・勤務歴、経験公務分掌、研修状況
 - ・派遣希望（即派遣 or 来年度登録派遣 or どちらでもよい）・指導経験および指導可能 教科・クラブ等
 - ・外国語能力・特技、資格、趣味、健康状態、既往歴・家族状況等・受験理由
 - ・派遣先希望（○どこでも希望する ○希望しない国、地域<理由>）
 - ②「在外教育施設派遣教員推薦書」（校長作成）
- 県教委 派遣教員選考面接
 - 6月上旬 県総合教育センター
 - ①個人面接（試験官2人と受験者1人）約20分
 - ②集団面接（試験官4人と受験者4人）約30分
 - 面接内容
 - ・志望動機・家族構成と家族の理解（特に配偶者）
 - ・在外で自分の力をどう生かせるのか
 - ・国内と異なる環境で、教材等の不足をどう克服するのか
 - ・多様な価値観の派遣教員の中で、どう行動するのか
 - ・職場や保護者との人間関係が悪化した場合どうするのか
 - ・帰国後に本県の児童生徒へ貢献できることは何か
- 選考結果の明示はなく、7月中旬に文科省選考試験実施の案内があった。
文科省試験は10日後であった。
- 文科省への持参書類の作成
 - 「選考に当たっての追加確認事項」
 - ・同伴家族について
 - ・両親の健康状態、派遣中の世話人の有無
 - ・海外生活、渡航経験
 - ・教員としての心がけ、自身や配偶者の性格
 - 「誓約書」
 - ・赴任地についての一任、または辞退書

○県派遣教員内定者研修会

- 7月上旬（県庁舎）
- 登録内定者対象（前年度合格者）
- 講話等 ～文科省面接へ向けての心構え～ 等

○文部科学省 派遣教員選考面接

- 7月下旬 文部科学省（旧文部省庁舎）
「選考に当たっての追加確認事項」「誓約書」提出
- 個人面接（試験官3人と受験者1人）約15分

<面接内容>

- ・志望動機・家族構成と家族の理解（特に配偶者）
- ・派遣先の希望確認
- ・在外で自分の力をどう生かせるのか
- ・校内における「主任」とその役割 など
- 10月下旬 健康診断書の提出

●面接結果

即派遣（翌年度派遣） → 11月下旬通知派遣先内示
12月上旬→シニア派遣（管理職）、中～下旬（教諭）
※派遣登録者（1年待ち） → 翌年 2月中旬通知

○渡航手続き

- 12月上旬文部科学省より渡航手続書類の提出依頼
※提出期間は2週間ほど 12月中旬提出締切

- ・公用旅券発給請求書 等（米国・台湾以外の派遣教員）・顔写真・家族随伴許可願・一般旅券の写し・査証【ビザ】取得用戸籍謄本
（メキシコ・豪・英・葡・ア・イラン・スウェーデン・仏・サウジ・トルコ・カタール・ブラジル・ニュージーランド・スリランカ・カナダ・アメリカ）

● 12月中旬

旅行代理店より査証【ビザ】取得手続書類の提出依頼

- ・IIE（国際教育機関）一身元引受機関— 提出書類
- ・J-I VISA（研究者、教師等交換プログラムビザ）取得申請書
- ・BIO DATA（経歴書）
- ・CURRICULUM VITAE（履歴書）
- ・本人情報・英文推薦状（県教委義務教育課長へ依頼）
- ・英文卒業証明書・パスポート原本

● 12月下旬

派遣先学校より届く
「学校要覧」「赴任の手引き」「学校紹介DVD」

○派遣教員内定者研修会

1月下旬（H29.1.23（月）～1.27（金））

- 主催 文部科学省初等中等教育局国際教育科
- 期間 5日間（日曜日入所、月～金曜日）
- 場所 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 内容：・派遣教員の使命、職務、身分、処遇等
・海外子女教育の現状と展望
・安全対策と危機管理・赴任地情報提供
・渡航手続き（予防接種説明、引越し業者選定、旅行保険選定 等）

※配偶者研修会（H29.1.21（土））も開催される。
（旅費は自費）

○渡航準備

熱帯地域派遣者は、黄熱病等の予防接種、米国派遣者は、3月末にアメリカ大使館へ行きビザの申請。

○渡航は4月上旬（H29.4.6辞令交付、6夜又は7午前）



家族のための研修会



【講師】

- 青木 真美 様（フィリピン・マニラ日本人学校 H25～H28）
- 下風 歌織 様（マレーシア・コタキナバル日本人学校 H25～H28）
- 野口 香奈子 様（シンガポール日本人学校中学部 H24～H27）
- 小西 真樹 様（イギリス・ロンドン日本人学校 H23～H27）

- ①内定が決まってから、周囲への配慮をどうしたか？
- ②任国に行ってから困ったことはどんなことでしたか？
言葉、買い物等の移動手段、中国では自家用車を運転することは禁止。日本人学校の受け入れ委員会からの連絡を基に準備した。
- ③現地での生活（治安・医療等）で苦労したこと
置き引き、スリの被害。生活は現地の物を調達。日本の物は3倍。医療では、子どもの病状を説明できるようにしておく。現地の薬は

【左から青木さん下風さん野口さん小西さん】 強いので、日本から持参したほうがよい。治安はよかった等。

- ④現地での生活（教育）で苦労したこと 派遣教員の子弟は日本人学校に入学・編入が原則。英検が年3回、上級を。私立学校なので入学金や授業料がかなり高いので、子どもが複数だと補助は出るが持ち出し多い。バス通学。
- ⑤準備金について
住宅費や自家用車代、当面の生活費（在勤手当が文科省から振り込まれるのが7月頃）200～300万円
受け入れ委員会へ300万円振り込んだ。が、口座開設に書類が不備で、2ヶ月入金が遅れた。文科省から渡航するために費用も出るが、子どもの洋服や持って行くものの購入費等でおおよそ100万円くらいかかっている。

「Webmaster@Abroad・海外で教える・異文化で暮らす・異文化を楽しむ」（高知県の
方が貴重な情報を提供されているサイトです）で検索すると、より詳しい最新情報が得られます。